



外国出張報告書

平成 27 年 4 月 2 日

1. 出張国名 ラオス
2. 出張月 平成 27 年 2-3 月
3. 出張目的 乾季水田畑作の生育・収量調査、土壌水分及び営農に関する調査、雨季作及び乾季作の土壌分析、次年度試験に関する関係者調整：C

4. 成果の概要

乾季水田畑作試験において、灌漑により昨年の天水栽培よりもダイズの地上部乾物重が増加した。昨年度推定したダイズの計画用水量は、栽培期間中の積算蒸発散量と一致した。一方、灌漑時に土壌表面に発生した亀裂による浸透損失が生じ、3～4 週間断の集中的な灌漑では、灌漑の効果が得られないと判断された。

移植時期別試験圃場の土壌分析の結果、ラオス農業研究センター圃場では、処理区間に全炭素、全窒素、有効態リンの有意な差は見られなかった。一方、共通試験サイトであるナムアン村圃場では、遅植え処理区的全窒素および有効態リン濃度が早植え区よりも低く、気象条件に加え、土壌肥沃度の差も処理区ごとの収量差に影響していると推定された。